

2011(平成23)年度JSSC鋼構造研究助成事業による 「鋼構造研究グループ」決定

(社)日本鋼構造協会では、2004(平成16)年度より会員の若手研究者を対象にした研究助成事業を実施している。2011(平成23)年度は土木・建築部門で鋼構造を研究する若手グループを対象に応募したところ、18件の応募があり、2月14日開催の学術研究助成小委員会(委員長:山田 均 横浜国立大学教授)にて評価を行い、学術委員会(委員長:井上 一郎 (財)日本建築総合試験所)で慎重に審査した結果、3月11日運営委員会で承認され、2011(平成23)年度は以下の通り個人会員:3グループ、準会員:2グループ、学生会員:1グループ計6件の研究テーマに対して総額260万円の助成をすることになった。

2012(平成24)年度助成の応募は7月上旬ごろのJSSCホームページにて案内の予定。

	No.	研究テーマ	代表者	所属
建 築	1	変厚鋼板を梁フランジに用いた梁端接合部の塑性変形能力	井川 大裕	京都大学大学院工学研究科
	2	実大鋼構造建物の3次元挙動に基づくメカニズムの変化と倒壊可能性に対する検討	島田 侑子	千葉大学大学院工学研究科 建築・都市科学専攻建築学 コース 助教
土 木	3	腐食損傷を受けた高力ボルト摩擦接合継手の残存軸力および強度に関する研究	橋本 国太郎	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 助教
	4	鋼製砂防堰堤への鋼管内部に木材を詰めたハイブリッド部材の適用効果について	越智 内士	明石工業高等専門学校 都市システム工学科 准教授
	5	鋼板プレストレス補強を用いた合理的な鋼桁端切欠部の疲労損傷対策法の提案	長尾 勇太	関西大学大学院理工学研究科
	6	面内曲げと圧縮力を受けるステンレス鋼板の終局強度特性と強度評価法	宮崎 靖大	長岡工業高等専門学校 環境都市工学 助教

JSSC 新刊案内

テクニカルレポート
No.93

ファイバーモデルを用いた鋼橋の動的耐震解析の現状と信頼性向上

税込
価格 5,000円

本書は(社)日本鉄鋼連盟からの委託により、(社)日本鋼構造協会内に設置された鋼橋の合理化構造・設計法研究委員会/鋼橋の耐震解析の信頼性向上研究小委員会の報告書としてまとめられたものである。

当該小委員会においては今後予定されている道路橋示方書の改訂に向け、主としてファイバーモデルを用いた鋼橋の耐震解析に関する計算指針を作成するための活動を行い、実設計に有用な情報を可能な限り収めた指針的

な内容とすることを目指した。

本報告書の内容構成は、「第1章:耐震解析法概説」「第2章:使用ソフトウェアの特徴と差異」「第3章耐震解析の標準化」「第4章:各種橋梁の標準モデル」「第5章:単柱式橋脚」「第6章:アーチ橋」「第7章:トラス橋」「第8章:耐震解析のミスの事例とチェックポイント」としている。本書が、今後の耐震解析を行う実務者や研究者の参考になれば幸いである。

鋼板製外壁構法標準 SSW2011

税込
価格 3,150円

鋼板製外壁の構造安全性を合理的に説明できるように技術資料、試験方法等の整備を目的に、構造安全性に係る検討を行い、その成果を『鋼板製外壁構法標準 SSW2011』として取りまとめ、独立行政法人建築研究所の監修を得て発行した。

本構法標準では、設計法、性能確認法、施工法等の検討を実施し、試験法と評価法の標準化を行うとともに、

高さ13m以下の建築物についても適用の対象とした合理的な構造設計に資する標準仕様を提示している。このほか、層間変位追従性や防水性に関わる試験を通して多様な性能を明らかにするとともに、外壁材特有の課題である美観性確保の観点からも、製品の成形から設計・施工までの留意点を整理している。